2014年春号　特集

仲間の中で「主体性」を育む　全国の園のアイディア

1 友だちの意見に触れ、自分の意見をつくる

園生活のあらゆる場面で、友だちの意見に耳を傾けるように促しています。考え方や価値観の違いを知ることで自分はどう思うのか、感じるのかに気づき、主体的に活動に取り組むことができるようになっていると感じます。最初は友だちの話をただ聞いていた子どもも、やがて自分の主張ができるようになっていきます。友だちの考えに触れるうちに、「自分はこうしてみたい！」という思いを強くしているからこその変化だと思います。
（長崎県・私立幼稚園）

2 保育者の声かけが子どもの主体性を伸ばす

保育者が子どもの気持ちに寄り添い、子どものがんばりを認めることを心がけています。子どもは保育者に自分の思いが伝わったり、行いを褒められたりすることで自信がつくのでしょう、自分の考えを積極的に口にし、自ら進んで行動するようになると感じています。また、3～4歳児は友だちの存在を気にするようになり、仲間意識が芽生えてきたと思います。
（兵庫県・私立保育園）

3 年上の子どもへの憧れが子どもの主体性を育む

子どもの発達に応じて主体性を段階的に伸ばせるように心がけています。例えばお店屋さんごっこでは、年少児は保育者と一緒に品物づくりなどを楽しむこと、年中児は品物をつくることから陳列することまでを担当し、自分の考えを保育者に伝えながら決めること、年長児は何をつくるか、どのようなお店にするかなどを自分たちで決めることを重視します。子どもは年上の子どもの姿を見て、「自分もお兄さんやお姉さんのようになりたい」と憧れるようです。だからこそ、私たち保育者が何も言わなくても、子ども一人ひとりが自分の考えを持ち、友だちと話し合いながら、行事や活動に積極的にかかわるようになるのだと感じています。
（岐阜県・私立幼稚園）

2014年春号 特集

仲間の中で「主体性」を育む 全国の園のアイディア

4 保育者が手を放し、子どもに考えてもらう保育を

保育者が指導するのではなく、子ども自身が考える機会を積極的につくっています。友だちとトラブルになってもしばらく様子を見る、何をして遊びたいかを子どもに問う、といった具合です。子どもは自分がどうしたいのかを主張できるようになったと思います。保育者に頼るばかりではなく、自分たちで解決しようとする姿勢も見られるようになりました。
（長崎県・私立保育園）

5 友だちのよさに気づくことで思いやりが生まれる

友だちのよいところを発表する取り組みに力を入れています。クラスの友だちだけでなく、園全体の友だちのよいところを見つけようと促したところ、子どもの間に、年齢を超えた仲間としてのつながりが生まれてきたと感じます。例えば、年長児が年中児に自発的に一輪車の乗り方を教え、伴奏しながら「もう少しだよ」と励ます姿、その年中児が一輪車に乗れるようになった時、みんなで「よかったね、できたね」と声をかける姿などが見られるようになりました。友だちの気持ちを思いやれるようになっていると思います。
（鹿児島県・国公立幼稚園）

6 どの子どもも楽しく取り組める企画を実践

子どもが「挑戦してみたい」と思うような環境を整えることを心がけています。例えば体力を育む活動では、どの子どもも楽しく取り組めるように子どもからもアイディアを募り、ケンケン跳びや網くぐりといった体を動かす要素を盛り込んだ「〇〇ランド」を行いました。子どもは友だちと楽しみながら、積極性や自主性を伸ばしていると思います。
（和歌山県・国公立幼稚園）

7 話し合い活動で友だちを思いやる心を育てる

年間の計画実施に沿いながら、子ども同士の話し合い活動をなるべく多く行うようにしています。話し合いを通して遊びや活動を共有でき、互いに刺激を受け合っていると思います。友だちを思いやる心が育ち、他者のよさを認められるようになっているとも感じます。
（大阪府・国公立幼稚園）